

国宝・重要文化財（建造物）等に対応した防火訓練マニュアルの概要

1 はじめに

▶ フランスのノートルダム大聖堂や首里城跡での火災を受け、国宝・重要文化財等において同様の惨事が生じないよう、文化財等の防火対策を一層推進することが求められています。

▶ 本マニュアルをもとに実践的な防火訓練を実施して、

- 火災の早期発見
- 迅速な 119 番通報（火災を発見したり、自動火災報知設備が作動したら直ちに 119 番通報）
- 迅速かつ的確な初期消火（複数の消火器や屋内（外）消火栓設備の有効活用）

が出来るようにしておきましょう。



首里城火災（那覇市消防局提供）

2 訓練実施の手順

1 火災危険の把握

建物の平面図等を用いて、出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等をあらかじめ把握しましょう。

2 訓練想定（出火日時、出火場所等）の検討

日中に加え、夜間等の関係者が少ない時間帯に出火危険がある場所や初期消火が困難な場所等での出火を想定しましょう。

3 火災発生時の初動対応の確認

訓練の実施前に、守るべき文化財等の明確化、火災の覚知、消防機関への通報、初期消火等の初動対応の具体化をしておきましょう。

4 訓練シナリオの作成

①～③や個々の文化財の実態を踏まえて訓練シナリオを作成しましょう。

5 消防機関等の関係者との連携

消防機関等から①～④について助言を得るとともに、設備の保守事業者等による消防用設備等の操作方法の説明機会を設けるほか、工事や催し物開催時の関係者間の火災発生時の役割分担をあらかじめ明確化しておきましょう。

6 訓練の実施

毎年定期的に実践的な訓練を実施し、記録を残しましょう。また、対応事項の手順等を確認するための図上訓練もできるだけ頻繁に行いましょう。訓練では屋内消火栓設備等から実際に水を放出してみましょう。

7 訓練の実施結果の検証

訓練実施後に事後検証（訓練の振り返り）を行い、明らかとなった課題に対して必要な措置を講じて防火対策の充実強化に努めましょう。

マニュアル

2

ページ参照

マニュアル

3

ページ参照

マニュアル

3～9

ページ参照

マニュアル

9

ページ参照

マニュアル

10

ページ参照

マニュアル

10

ページ参照

マニュアル

10

ページ参照

3 訓練シナリオの例（詳細は別紙3）

例1 日中に火災が発生した想定



建物概要

- 文化財の種類：国宝
- ○○城天守閣 木造地上6階建て
- 延べ面積：2,000 m²

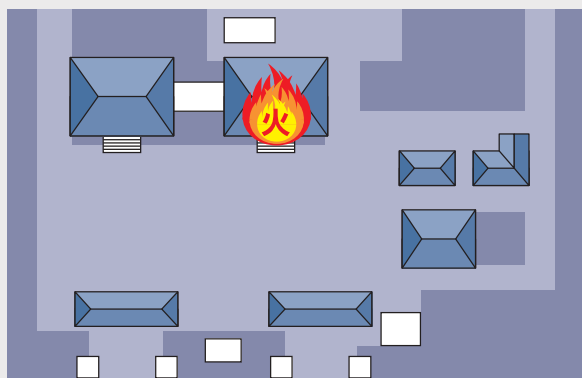
主なシナリオ

- 日中に火災が発生
- 木造建築物の高層階から出火
- 最上階（6階）に避難者多数

期待できる効果

- 日中の観光客が多い時間帯での初動対応
- 上階に観光客が多数いる場合における対応
- 複数の消火設備による初期消火体制の確立

例2 夜間に火災が発生した想定



建物概要

- 文化財の種類：重要文化財（国宝・重要文化財複数保存）
- ○○寺院 木造地上2階建て
- 延べ面積：1,000 m²
- 収蔵品：5件（うち国宝1件、重要文化財4件）

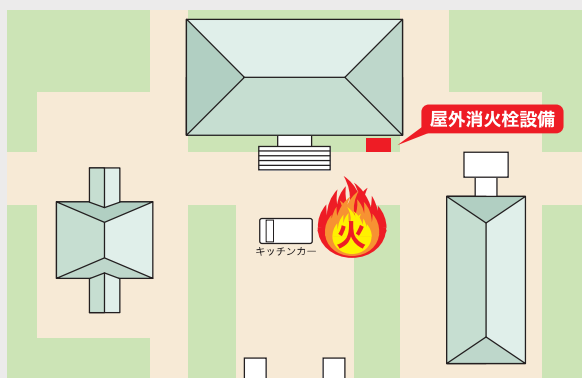
主なシナリオ

- 夜間に火災が発生
- 避難者はいない

期待できる効果

- 夜間の限られた人員での初動対応
- 早期の火災通報（二段通報の実施）
- 複数の消火設備による初期消火体制の確立

例3 催し物の開催中に火災が発生した想定



建物概要

- 文化財の種類：非重要文化財（国宝・重要文化財多数保存）
- ○○博物館 耐火造地下2階地上6階建て
- 延べ面積：20,000 m²
- 収蔵品：11万7000件（うち国宝90件、重要文化財600件）

主なシナリオ

- 日中の催し物の開催中に火災が発生
- 建物への延焼危険あり

期待できる効果

- 日中の催し物の開催時における初動対応
- 催し物の関係者及び自衛消防隊の情報連絡体制の確立
- 延焼の恐れのある建物からの観光客の避難誘導及び優先順を付けた文化財の搬出

4 おわりに

文化財の実態に応じたリスクを検討し、検討結果に応じた訓練を実施して迅速に対応できるか検証しましょう。対応に課題が見つかった場合は、検討や対策を行い、再度、訓練で検証しましょう。